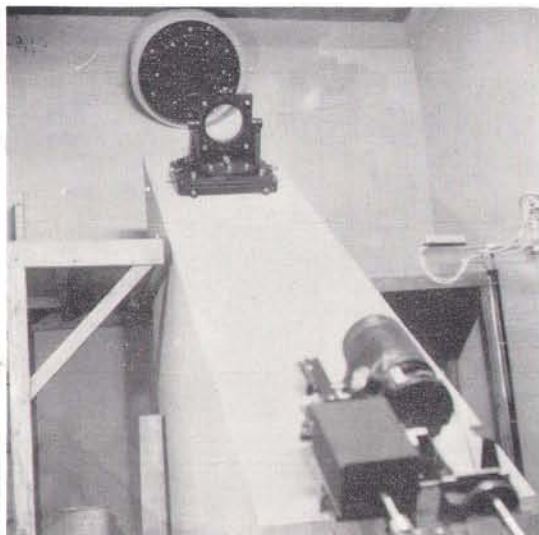


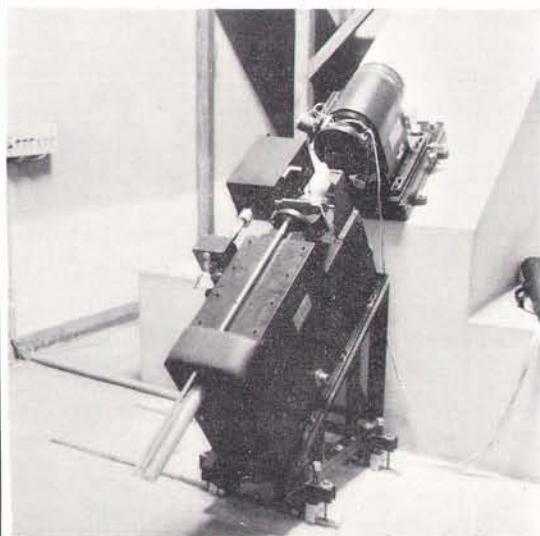
堂平山の極望遠鏡 (本文参照)



1. 計機室の自動操縦装置と温度、湿度、気圧の記録器



2. 極望遠鏡室内の平行平板、レンズ等、下部に乾板取付部が見える。右のスタンドに固定されているのが温度湿度の測定素子、このむこうに水平振子が置いてある。

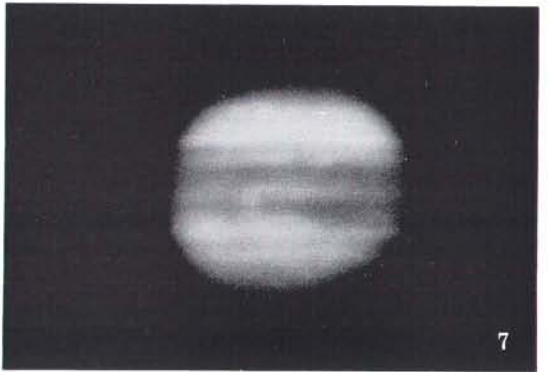
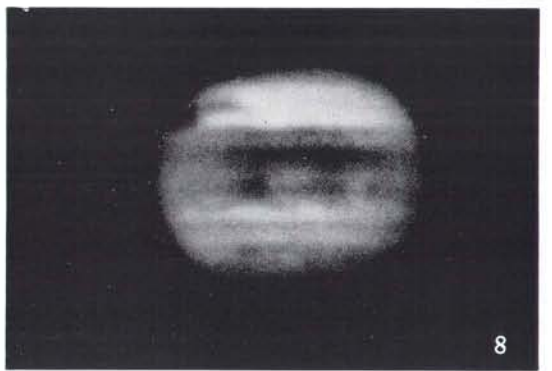
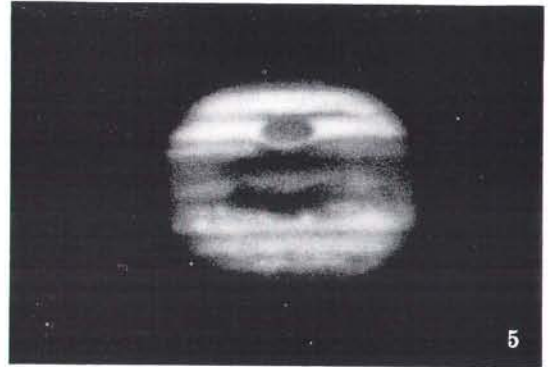
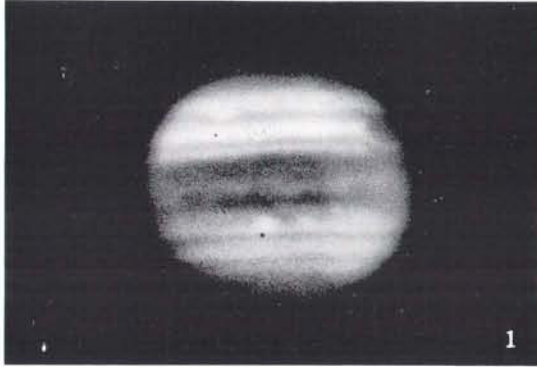


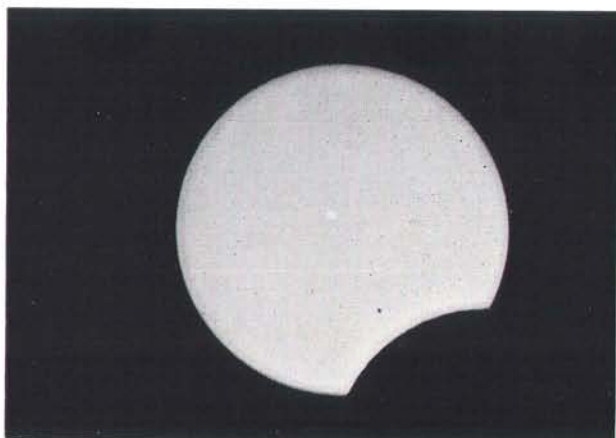
3. 極望遠鏡室内の乾板取付部と自動乾板取換装置。乾板は取付部左側の箱の中から一枚ずつ取出され、観測終了後また箱の中に格納される。



4. 視線室内の晴曇判別装置の望遠鏡。
 $D=6.5\text{ cm}$, $f=80\text{ cm}$.

富山市天文台で撮影した木星の写真





法政大学第二高校地学部
天文班撮影の日食写真



左頁の写真は富山市天文台で撮影した木星の写真で、すこぶる分解能のすぐれたものである。使用した望遠鏡は 40cm 反射鏡のカセグレイン焦点で、25cm 口径の扁心絞を使用、焦点距離 750cm、25mm ケルナー・アイピースで引伸し、その焦点面にニコン F・ボデーを使用、引伸による焦点距離 1750cm、 $f:70$ 、フィルターを用いず、露出 3~5 秒。ミニコピー・フィルム使用。

撮影時刻は①より順に、1964年11月27日、20時26分、20時41分、21時03分、21時10分、21時51分、22時11分、23時21分、24時29分 (J. S. T.) (最後の2枚 8, 7 の番号は誤り)

右頁の写真は昨年 12 月 4 日の部分日食を、法政大学第二高校の地学部天文班で撮影したもの。口径 10cm の反射鏡、経緯台に据付け、アサヒペンタックスで写した。露出 1/60 秒、サングラス使用、ネオパン SS フィルムで撮影。接触時刻を、この写真観測および眼視観測から決定しているが、いずれも約 10 秒程度のバラツキでよく一致している。撮影時刻は①より順に、8時50分21秒、9時00分40秒、9時35分20秒、9時35分35秒、9時49分20秒、10時06分19秒、10時31分50秒、10時34分50秒 (J. S. T.) である。